

地域医療連携室ニュース 第49号

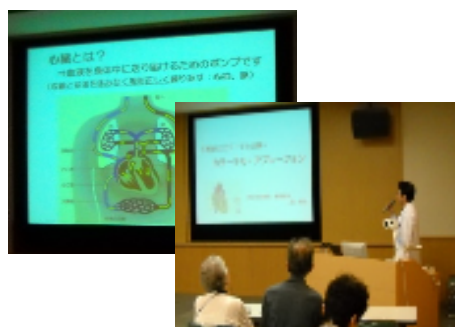
2014年11月

初冬を迎え、いよいよ年の暮れも近づいてまいりましたが、地域の医療機関の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。さて、今月の地域医療連携室ニュース第49号では、平成26年度市民公開講座-これだけは知っておこう 病気・治療の豆知識40分講演-の模様とその他に行われましたイベントについてご紹介いたします。

平成26年度市民公開講座 -これだけは知っておこう 病気・治療の豆知識40分講演-

院内東館
2F 講堂

§ 不整脈のカテーテル治療～カテーテルアブレーション～ § 循環器内科 二宮副部長



開催日
8月8日(金)
参加人数
53名

カテーテルアブレーションは多くの不整脈治療に有用な根治術で、発作性上室性頻脈や、通常型心房粗動では第一選択の治療となっています。術後も問題がなければ翌日や翌々日には退院が可能で、不整脈に悩む患者様も少なくない中、ご来場された方々も今後の治療における選択肢のひとつとなったのではないのでしょうか。

§ 皮膚がんの話～恐れるなかれ されども、悔ることなかれ～ § 皮膚科 吉良部長



開催日
9月11日(木)
参加人数
45名

皮膚がんに関する知識・認知というのは、他のがんに比べると患者様やご家族様にとって情報が少ないかもしれません。皮膚の光老化を抑える為に日焼け止めや塗り薬が効果的であることや、悪性黒色腫とほくろの違いはどのようなところにあるのかなど、今すぐにでも自分で確認が出来ることや今後の予防に役立つお話がありました。

「熱意が支える技術の進化
～さらなるモチベーションアップをめざして～」

日時：平成26年10月26日（日）9：40～開演

§ 認知症と向き合うために
～急性期病院における認知症合併の退院支援～ §



神経内科部長
山下 真理子



地域医療連携室MSW
尾関 茜

府民公開講座では、退院後も継続的に必要な医療や介護の支援が受けられるよう、入院から退院までの退院支援のあり方や医療ソーシャルワーカーの役割、在宅で活用出来る社会資源等についてお話しさせていただきました。

2025年の高齢者問題に向けて、今後も認知症高齢者の増加が見込まれています。住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続するために、入院早期からどのような身体症状で退院するのかを予測し、退院後の生活をイメージできるよう患者・家族と共に考え、地域の医療・介護の関係者との連携を強化することに努めていきたいと思っています。



今後のお知らせ



ご挨拶



本年も地域医療連携室業務において、多大なるご協力とご理解をいただき、心より御礼申し上げます。

今年も年末年始は9連休と長期に渡る休暇となります。昨年と同様に、その間に不安のある患者様に対しては、レスパイト（社会的）入院を検討しておりますのでご相談下さい。

来年も地域のますますの発展に努めてまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。